

マキノ町下開田遺跡発掘調査報告書

— マキノ町工業団地造成事業に伴う発掘調査 —

1985

滋賀県教育委員会
財団法人滋賀県文化財保護協会

は し が き

琵琶湖をかかえる滋賀県は、古くから、良好な生活の場、交通の要、時には政治の中心として栄え、数多くの遺跡が存在しており、湖西最北部に位置するマキノ町もこの例外ではありません。

このたびこのマキノ町下開田地区において、工業団地の造成が予定され、これに先きだち、発掘調査を実施しましたので、その結果をまとめました。本書が歴史を考えるための資料となれば幸いです。

文末ではございますが、調査にご理解と、ご協力を賜りました関係者の皆様にお礼を申し上げます。

昭和 60 年 3 月

滋賀県教育委員会
文化財保護課長

市原 浩

例 言

1. 本書は、土地開発公社の実施する、マキノ町工業団地造成に伴う発掘調査報告書である。
2. 本調査は滋賀県土地開発公社から滋賀県に委託があり、さらに財団法人滋賀県文化財保護協会に委託され、昭和59年度事業として実施したものである。調査は、同協会調査課技師吉谷芳幸を担当とし、同技師横田洋三が現地調査に当たった。
3. 本事業の事務局は次のとおりである。事務局長江波弥太郎、調査課長林博通、総務課主事松本暢弘、立入裕子。
4. 調査にあたっては、マキノ町教育委員会の助力を得、以下の諸氏の参加と協力を得た。
宇野優子、茂呂貴美雄、杉田陽子、他同志社大学・滋賀医科大大学生。
5. 本書は、横田洋三が執筆し、図版等については宇野優子の協力を得て作成した。

目 次

はしがき

例 言

1. はじめに	1
2. 位置と環境	1
3. 調査の経過 (遺構・遺物)	
1) 地点調査 A～D地区	2
2) 塚状石積No.1～9	4
3) 石仏類	4
4. まとめ	5

挿 図 目 次

1. 調査地位置図	1
2. 調査地点配置図	2
3. A地区遺構実側図	3
4. 塚状石積No.6～9	3
5. 石仏類実側図	4

図 版 目 次

図版 1	調査地全景、A地区全景
図版 2	B地区全景、D地区全景
図版 3	塚状石積No.6・7、塚状石積No.9
図版 4	塚状石積No.1、同断面
図版 5	塚状石積No.2、同断面
図版 6	A地区、石仏類1・2

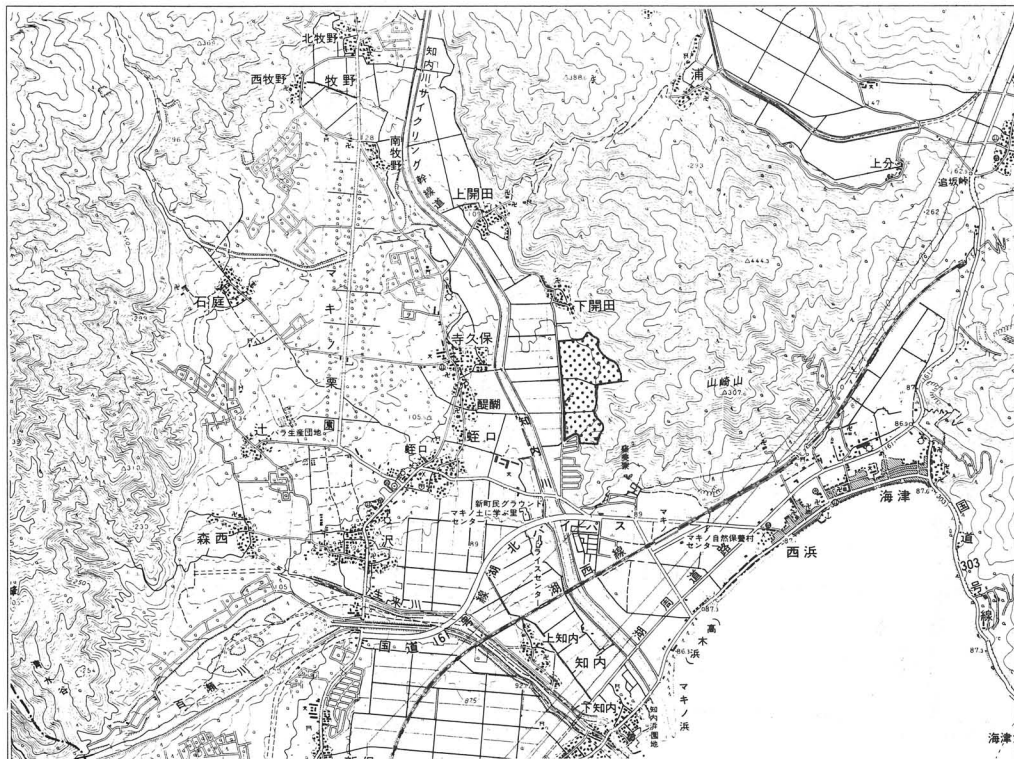
マキノ町下開田遺跡発掘調査報告

1. はじめに

マキノ町下開田において、昭和59年、工業団地造成工事が計画された。この地区においては、遺跡の確認はなされていなかったが、工事面積が約20haに及ぶために、分布調査を行った。結果、古墳時代～江戸時代にかけての遺物が散見され、また塚状の石積や、テラス状の平坦地等が認められたため、発掘調査を行うことになった。

2. 位置と環境

知内川により形成された平野部の東側で、山崎山の山麓に位置する。山間から流れ出た小川が扇状地を形成し、調査地は、この扇状地の要部から裾部までの広範囲にわたる。土質は扇状地特有の礫を多く含むものであり、また裾部以下においても知内川の氾濫によるものかと思われる礫を多く含むものである。調査地各所では多くの湧水が見られ、このためか、平坦地の大部分は湿地帯となっており、耕作の手を離れ数年たった調査時点では、葦、蒲又は芹等の好湿性の植物が自生している。



第1図 調査地位置図

3. 調査の経過（遺構・遺物）

(1) 地点調査

A 地区（第3図 図版1）

平坦微高地であり、この地点では湧水は見られず、乾地になっている。ここには畦上に石仏、五輪塔が集められている（図版6）。この石仏類は近くに散乱していたものや、畑地から掘り起こされたものを一カ所に集めたもので、付近に中世墓域があることが予想された。

調査は、幅5m・長さ20mのトレンチを南北・東西に直行して入れ行った。この結果、調査区の多くは耕作土の下が5～15cm大の礫を多く含む単純層となっており、遺構・遺物は検出されなかった。ただ東西トレンチ西側では、土壌を検出し、ここを拡張して調査を進め、直径1m、深さ30cm程度の円形の土壌4基を検出した。土壌1基（SK-3）から骨片・炭を検出し、これを土壌墓と確認した。土壌内から他の遺物は検出されず、これらを覆う厚さ5cm程度の堆積層から、平安時代～江戸時代の土師器・陶器の小片を数点検出した。

B 地区（図版2）

山麓斜面に石垣状の石が露出し、五輪塔の火輪が石材の一部として使われたのか、



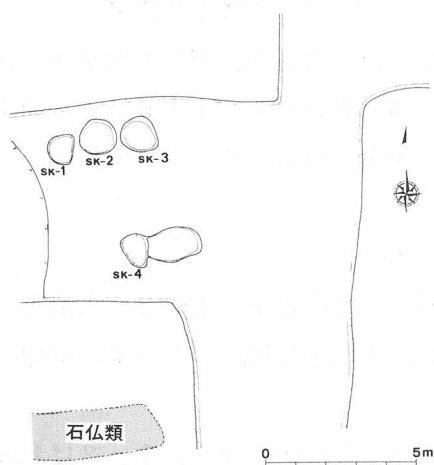
第2図 調査地点配置図

この斜面上に見えている。

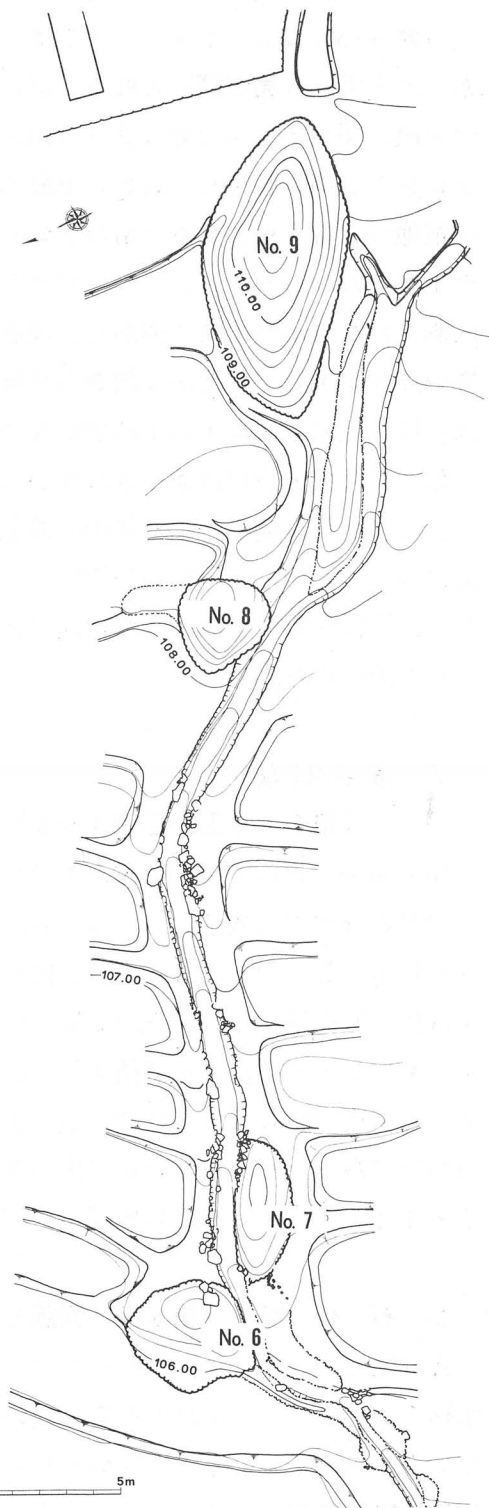
調査は、斜面の被覆土を剥ぎ、下方の平坦地には幅1.5m、長さ4mのトレンチ2本を入れ行った。結果、石垣は上部一段しかみとめられず、また下方にも崩れ落ちたような石材は検出されなかった。トレンチでは、10cm程度の耕作土の下は黄褐色の単純層となり、遺構・遺物は検出されなかった。

C 地区

杉の育成が行われており、耕作土は無く表面から礫土となっている。ここでは古墳時代～平安時代の須恵器片を数点地表面で採取している。調査は、各平坦面に幅2m、長さ5mのトレンチを3本入れ行った。結果、礫土の単純層がつづき、遺構・遺物は検出されなかった。前記の遺物は、さらに上流からの再堆積、もしくは、人為的な客土によってもたらされたものかと思われる。



第3図 A地区トレンチ



第4図 塚状石積No.6～9

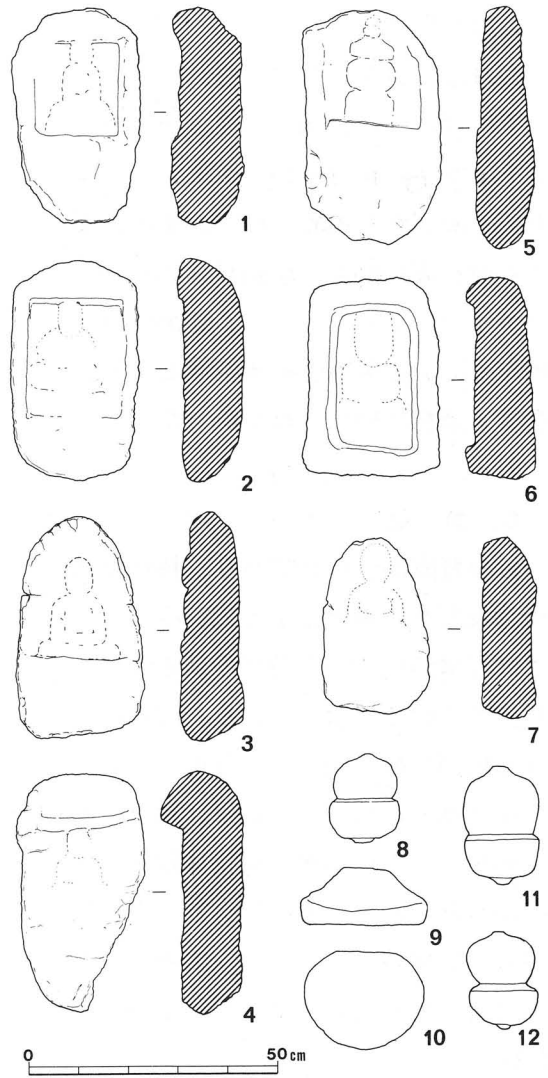
D 地区 (図版 2)

斜面を石垣により区割した平坦地であり、上下、2面が認められる。調査は上段の平坦地に幅2m、長さ10mのトレンチ2本を直行して入れ、下段の平坦地には幅2m、長さ3mのトレンチ1本を入れ行った。ここは、整然と区割された跡が見られる所から、建造物の存在が予想されたが、調査の結果は、耕作土の下は礫土の単純層になっており、遺構・遺物は検出されなかった。この地点が開墾された耕地の最上部に当たることや、石垣がやや粗いことから、比較的新しく開かれた耕地であったと思われる。

(2) 塚状石積

(第2・4図、図版3～5)

10～30cm大の石を塚状に積み上げたものが調査地内に数基点在する。直径5～10m、高さ0.5～2mを測り、円形又は長円形を呈する。調査の結果、いずれも内部まで同様の石で積み、底部にも特別な施設は見られず、遺物も検出されなかった。周辺が、同様の礫を多く含む地質であるため、耕作面から排出された礫の集合体と思われる。1・5は平坦面上、2・4は畦上、6～9はD地区から流れ出る小流の両岸に位置する。



第5図 石仏・五輪塔

10～30cm大の石を塚状に積み上げたものが調査地内に数基点在する。直径5～10m、高さ0.5～2mを測り、円形又は長円形を呈する。調査の結果、いずれも内部まで同様の石で積み、底部にも特別な施設は見られず、遺物も検出されなかった。周辺が、同様の礫を多く含む地質であるため、耕作面から排出された礫の集合体と思われる。1・5は平坦面上、2・4は畦上、6～9はD地区から流れ出る小流の両岸に位置する。

(3) 石仏類 (第5図、図版6)

A地区の一カ所に集められたもので、小石仏9軀、五輪塔の空・風輪3、火輪1、水輪1コがある。いずれも室町時代のもと思われる、A地区で検出した古墓の墓標として立てられていたものと思われる。

阿弥陀坐像板碑 (1・2・4) 先端が山形もしくは、台形状をなし、1、2は表面の左右に輪郭を残し、内をさらに彫りくぼめ、像を彫刻している。4は、輪郭が無く

頭部が前方に張り出している。像は、いずれも阿弥陀坐像と思われるが風化が著しく、判然としない。

五輪塔板碑（5）、1・2と同様の形式をとるが、表面には五輪塔が彫刻されている。頭部は一部欠損している。

笠塔婆（6）塔身のみが残っており、本来は上部に笠が付くものである。4面に輪郭を残し、内部に阿弥陀坐像が彫刻されていると思われるが、これも風化が著しく判然としない。

小石仏（3・7）舟形の光背を持ち、阿弥陀坐像が彫刻されている。下部は調整が粗く、前記の板碑同様、一部を地中に埋めて建てられていたものと思われる。

五輪塔（8～12）8・11・12は空・風輪、9は火輪、10は水輪。

以上いずれも花崗岩製である。ただ3、7は結晶が細かく他と異っている。

4. ま と め

広い調査対象面積であったが、その多くは表土（旧耕作土）の下が著しく礫の多い地質であり、A地区でのごくわずかを除いては、包含層、遺構等は検出されなかった。扇状地、もしくは知内川による作用が強く、遺跡を包有するような安定した層を作ることができなかったのであろう。また礫の多い土質でしかも湿地であるという条件は、人間社会においては粗な関係とならざるをえない場所なのであろうか。

文末ではありますが、炎天下の中、調査に協力していただいた地元の皆さんにお礼申し上げます。



調査地全景



A地区全景



B地区全景



D地区全景



塚状石積No. 6 . 7



塚状石積No. 9



塚状石積No. 1



塚状石積No. 1 断面



塚状石積No. 2



塚状石積No. 2 断面



A 地区石仏類 1



A 地区石仏類 2

マキノ町下開田遺跡発掘調査報告書

— マキノ町工業団地造成事業に伴う発掘調査 —

昭和60年3月

編集 滋賀県教育委員会
発行 滋賀県教育委員会
(財)滋賀県文化財保護協会
印刷 宮川印刷株式会社
